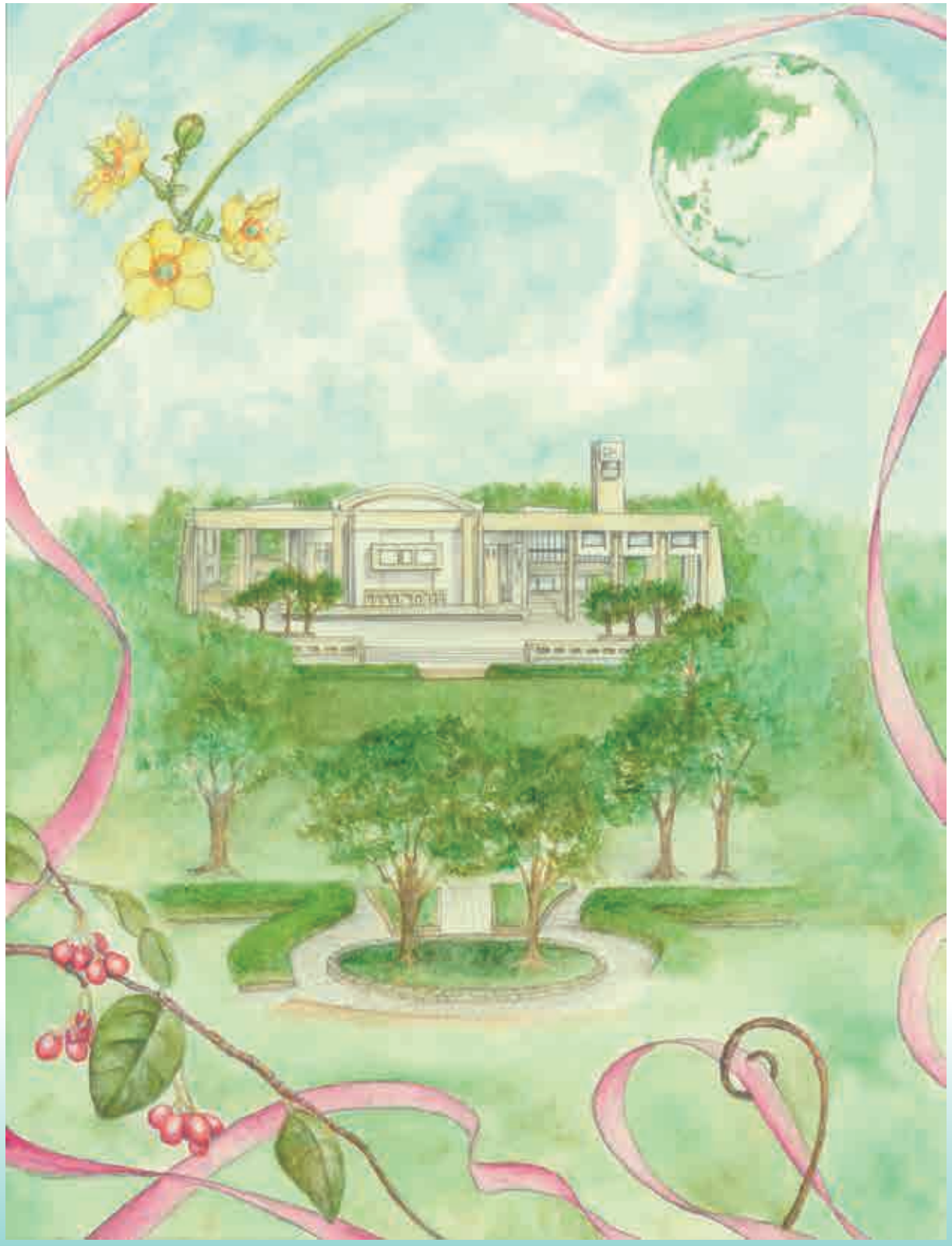
NAGOYA UNIVERSITY

国立大学法人名古屋大学

環境報告書2018

ENVIRONMENTAL REPORT

－持続可能な社会に向けた活動－



総長メッセージ

大阪北部地震、平成30年７月豪雨および北海道胆振東部地震で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

名古屋大学は、環境マネジメントや環境に対する研究活動に関するこれまでの地道な取組が評価され、2017年度に省エネ大賞資源エネルギー庁長官賞をはじめ数多くの賞をいただくことができました。これは、最高水準のサステイナブルキャンパスを目指し、本学の構成員が一丸となって取り組んできた成果であります。また、私たちの活動拠点であるキャンパスの持続可能性だけでなく、持続可能な社会を構築するための研究活動も評価されたものです。

本学の取組の重要な柱の一つに、東海地区という世界有数の産業集積地に立地する優位性を生かし、産業界との連携を強めていくことがあります。これは、研究成果の社会への還元性をよりいっそう高め、この東海地区から世界へ発信していくということでもあります。持続可能な社会へ向けた研究や技術開発、さらにはそれらを社会に実装するための仕組みづくりや人材育成も非常に重要であると認識しています。

これらの取組が評価され、本学は、2018年３月に、文部科学大臣より「指定国立大学法人」の指定を受けました。教職員だけでなく、学生や研究員などすべての構成員が総力を挙げて、「世界屈指の研究大学」を目指して研究教育活動に取り組んでいます。本学の研究・教育活動のすべては、豊かな地球環境の保全や人類の平和と繁栄を含め、さまざまな形で社会へ貢献していると自負しています。国連サミットで2015年に定められた「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals; SDGs）」達成に向け、今後もいっそう、持続可能性を追求した活動を行ってまいります。

指定国立大学法人としての新たなスタートを切り、自由闊達な学風である本学の強みを生かす新しい挑戦を始めています。クラウドファンディングを活用した本学の若い世代の自由な発想による挑戦への支援を受ける仕組みのほか、日本初のマルチキャンパスシステムである、「国立大学機構」の樹立へ向けた検討などがすでに始まっています。特に環境安全衛生や防災の分野では、先陣を切って東海地区の国立大学等の担当者間の連携や情報交換が進められており、国立大学機構の基盤を支える重要な位置を占めるものとなっていくものと期待しています。

環境報告書2018では、このような本学の環境への取組の真剣さをお伝えできるものと考えています。これからも本学へのご支援・ご鞭撻をいただければ幸甚です。

2018年９月

名古屋大学総長

松尾清一

名古屋大学学術憲章

名古屋大学は、学問の府として、大学固有の役割とその歴史的、社会的使命を確認し、その学術活動の基本理念をここに定める。

名古屋大学は、自由闊達な学風の下、人間と社会と自然に関する研究と教育を通じて、人々の幸福に貢献することを、その使命とする。とりわけ、人間性と科学の調和的発展を目指し、人文科学、社会科学、自然科学をともに視野に入れた高度な研究と教育を実践する。このために、以下の基本目標および基本方針に基づく諸施策を実施し、基幹的総合大学としての責務を持続的に果たす。

1. 研究と教育の基本目標

(1) 名古屋大学は、創造的な研究活動によって真理を探究し、世界屈指の知的成果を産み出す。
(2) 名古屋大学は、自発性を重視する教育実践によって、論理的思考力と想像力に富んだ勇気ある知識人を育てる。

2. 社会的貢献の基本目標

(1) 名古屋大学は、先端的な学術研究と、国内外で指導的役割を果たしうる人材の養成とを通じて、人類の福祉と文化の発展ならびに世界の産業に貢献する。
(2) 名古屋大学は、その立地する地域社会の特性を生かし、多面的な学術研究活動を通じて地域の発展に貢献する。
(3) 名古屋大学は、国際的な学術連携および留学生教育を進め、世界とりわけアジア諸国との交流に貢献する。

3. 研究教育体制の基本方針

(1) 名古屋大学は、人文と社会と自然の諸現象を俯瞰的立場から研究し、現代の諸課題に応え、人間性に立脚した新しい価値観や知識体系を創出するための研究体制を整備し、充実させる。
(2) 名古屋大学は、世界の知的伝統の中で培われた知的資産を正しく継承し発展させる教育体制を整備し、高度で革新的な教育活動を推進する。
(3) 名古屋大学は、活発な情報発信と人的交流、および国内外の諸機関との連携によって学術文化の国際的拠点を形成する。

4. 大学運営の基本方針

(1) 名古屋大学は、構成員の自律性と自発性に基づく探究を常に支援し、学問研究の自由を保障する。
(2) 名古屋大学は、構成員が、研究と教育に関わる理念と目標および運営原則の策定や実現に、それぞれの立場から参画することを求める。
(3) 名古屋大学は、構成員の研究活動、教育実践ならびに管理運営に関して、主体的に点検と評価を進めるとともに、他者からの批判的評価を積極的に求め、開かれた大学を目指す。

名古屋大学環境方針

名古屋大学は、その学術活動の基本理念を定めた「名古屋大学学術憲章」において、「自由闊達な学風の下、人間と社会と自然に関する研究と教育を通じて、人々の幸福に貢献することを、その使命とする」と記している。名古屋大学は、この学術憲章に基づき、文明の発達や現代人の行動が未来の世代に与える影響の重大さを認識し、想像力豊かな教育・研究活動による人類と自然の調和的発展への貢献と社会的役割を果たしていくために、次の基本理念と基本方針を定める。

1. 基本理念

名古屋大学は、人類が築きあげてきた多様な文化や価値観を認め、次世代のために真に尊重すべきことは何かを考え、持続可能な社会の実現に貢献する。

2. 基本方針

(基本姿勢)
(1) 名古屋大学は、環境問題の原因を究明し、これらに適切に対処していくため、すべての学術分野において、持続可能な発展を目指した教育と研究を進める。

(環境マネジメント)
(2) 名古屋大学は、環境マネジメントの継続的改善を図るため、大学のあるべき姿となすべき行動を関係者とともに考え、実践し、追求する。

(環境パフォーマンス)
(3) 名古屋大学は、自らの活動が環境に及ぼす影響や負荷を関係者とともに認識し、環境負荷の低減や未然防止に向けた総合的かつ体系的な課題解決に努める。

(社会的責任・環境コミュニケーション)
(4) 名古屋大学は、法令等の遵守、倫理の尊重、情報の公開、関係者とのコミュニケーションや相互理解を通して、地域社会や国際社会からの信頼を高める。

目次

総長メッセージ …… 1
名古屋大学学術憲章/名古屋大学環境方針 …… 2
目次 …… 3
名古屋大学からSDGsの達成に向けて …… 4
名古屋大学キャンパスマップ（東山・鶴舞・大幸） …… 5
■学外からの評価
名古屋大学の環境への取組が多くの賞に選出 …… 7
［受賞関連特集］教職協働による省エネへの取組 …… 9
［受賞関連特集］キャンパスマスタープランにおけるCO_2 削減目標の達成状況 …… 10
［受賞関連特集］CO_2削減に向けた新たな取組 …… 11

1 環境に関する教育・研究 …… 12
■教育
1-1 全学教育科目基礎セミナー「都市の川は甦るか？」 …… 13
1-2 農学分野におけるタイ・カンボジア大学間学術協定校との研修・交流プログラム …… 15
■研究
1-3 学生による研究者へのインタビュー 廃棄物からワンステップで水素製造　循環型社会の実現へ …… 17
1-4 学生による研究紹介 生物の進化と生態を解明します …… 19
1-5 温室効果ガスの排出量取引　環境政策の経済的手法 …… 21

2 社会的責任・環境コミュニケーション …… 24
2-1 「臨床環境学」で持続可能な地域づくりに貢献 - On-site Research Training - …… 25
2-2 ジェンダー研究の拠点設立 …… 27
2-3 障害のある学生のキャンパス・インクルージョンの実現のために …… 29
2-4 8人に1人は留学生。国際性と個性を生かして学び合う環境づくり …… 31
2-5 価値あるアイデアを名古屋大学から …… 33
2-6 学生サークルによる継続的な環境への取組の実践 …… 34
2-7 卒業生の活躍　アルファ線検出器の開発とその応用 …… 35

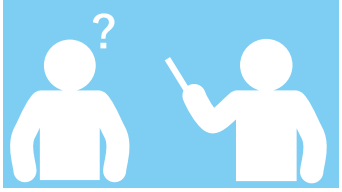
3 環境マネジメント・環境パフォーマンス …… 36
3-1 環境マネジメント体制 …… 37
3-2 環境配慮のための目標と達成状況 …… 38
3-3 環境関連法規制等の遵守状況 …… 38
3-4 事業活動のマテリアルバランス …… 39
3-5 環境会計コスト …… 40
3-6 グリーン購入・調達 …… 40
3-7 エネルギー使用量とCO_2排出量 …… 41
3-8 水使用量 …… 42
3-9 廃棄物の排出・適正管理 …… 43
3-10 化学物質管理 …… 44
3-11 環境汚染防止への取組 …… 45
3-12 安全衛生への取組 …… 46
3-13 大規模災害時に大学の安全と機能を守る …… 47

他大学との意見交換 …… 49
第三者評価 …… 51
自己評価 …… 52
編集後記 …… 53
編集方針 …… 53
名古屋大学概要 …… 55
キャンパス所在地・海外拠点一覧 …… 56
表紙作品の公募について …… 58

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

1-1	13 11 6
1-2	2 12 17
1-3	7 15
1-4	15 14 13
1-5	13 12 7
2-1	11 15
2-2	4 5 10
2-3	4 10
2-4	4 5
2-5	9 4 5
2-6	12 15
2-7	7 9 3

学生の視点から
キャンパスの環境に関する質問に答えます …… 23、48



■各章は、名古屋大学環境方針（P2）「2. 基本方針」の内容に対応した構成としています。
第１章：基本姿勢
第２章：社会的責任・環境コミュニケーション
第３章：環境マネジメント・環境パフォーマンス

■第１章「環境に関する教育・研究」第２章「社会的責任・環境コミュニケーション」のページ数の右側に関連するSDGsの目標№を記載しています。
また各記事のページでは、右上に該当するSDGsのアイコンを記載しています。

名古屋大学からSDGsの達成に向けて

2015年９月の国連サミットにおいて採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」では、2016年から2030年までに達成すべき国際目標として「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）」を掲げています。

SDGsは人類の普遍的な平和と繁栄を追求し、持続可能な世界を実現するための17目標と169ターゲットから構成され、達成に向けて発展途上国・先進国がともに取り組むことが求められています。

本学は、SDGsの達成に大学を挙げて取り組んでいます。名古屋大学学術憲章では、「人間と社会と自然に関する研究と教育を通じて、人々の幸福に貢献することを、その使命とする」ことを謳っています。また、名古屋大学が2020年までに達成する目標「松尾イニシアティブ（NU MIRAI）2020」※では、世界屈指の研究大学として、「人類の幸福に貢献する〈勇気ある知識人〉の育成」や「人類の知の創造に貢献する世界トップレベルの研究の実施と、その環境整備の推進」を戦略の柱として掲げています。こうした本学の基本理念や基本目標は、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が掲げる理念と価値観を共有しており、本学は、研究・教育による知の創造・イノベーションの創出や人材育成、そして社会貢献活動を通じて、SDGsの達成への貢献にコミットしています。

※：松尾イニシアティブ（NU MIRAI 2020）は、下記 Web ページでご覧いただけます。
http://www.nagoya-u.ac.jp/about-nu/declaration/nu_mirai_2020/index.html

基幹的総合国立大学である本学では、多様な分野の研究・教育活動がSDGs達成に貢献しています。例えば、トランスフォーマティブ生命分子研究所（ITbM）による寄生植物ストライガの発芽を誘導するたんぱく質の発見は、ストライガによる農業被害を減少させ、アフリカの食糧問題を劇的に改善することが期待され、目標２（飢餓の撲滅、食糧安全保障と持続可能な農業）に貢献します。また、未来材料・システム研究所による窒化ガリウム（GaN）パワーデバイス実現に向けた要素技術の開発など次世代半導体研究開発は、省エネルギー社会の実現を通じて、目標７（持続可能な近代的エネルギーへのアクセス）に貢献します。

本学は、2015年に国連機関UN Womenがグローバルに展開するジェンダー平等推進のための運動HeForSheを主導する世界の10大学に日本の大学で唯一選ばれ、国内外のジェンダー平等推進活動に積極的に取り組んでおり、目標５（ジェンダー平等）に貢献しています。さらに、2018年にフューチャー・アース研究センターが設立され、環境学研究科や国際開発研究科などが連携し、市民、行政、企業等との協働により持続可能な地球環境や都市・生活圏、生態系などSDGs達成に貢献する研究を推進しています。

副理事（国連・国際機関担当）
岡田 亜弥

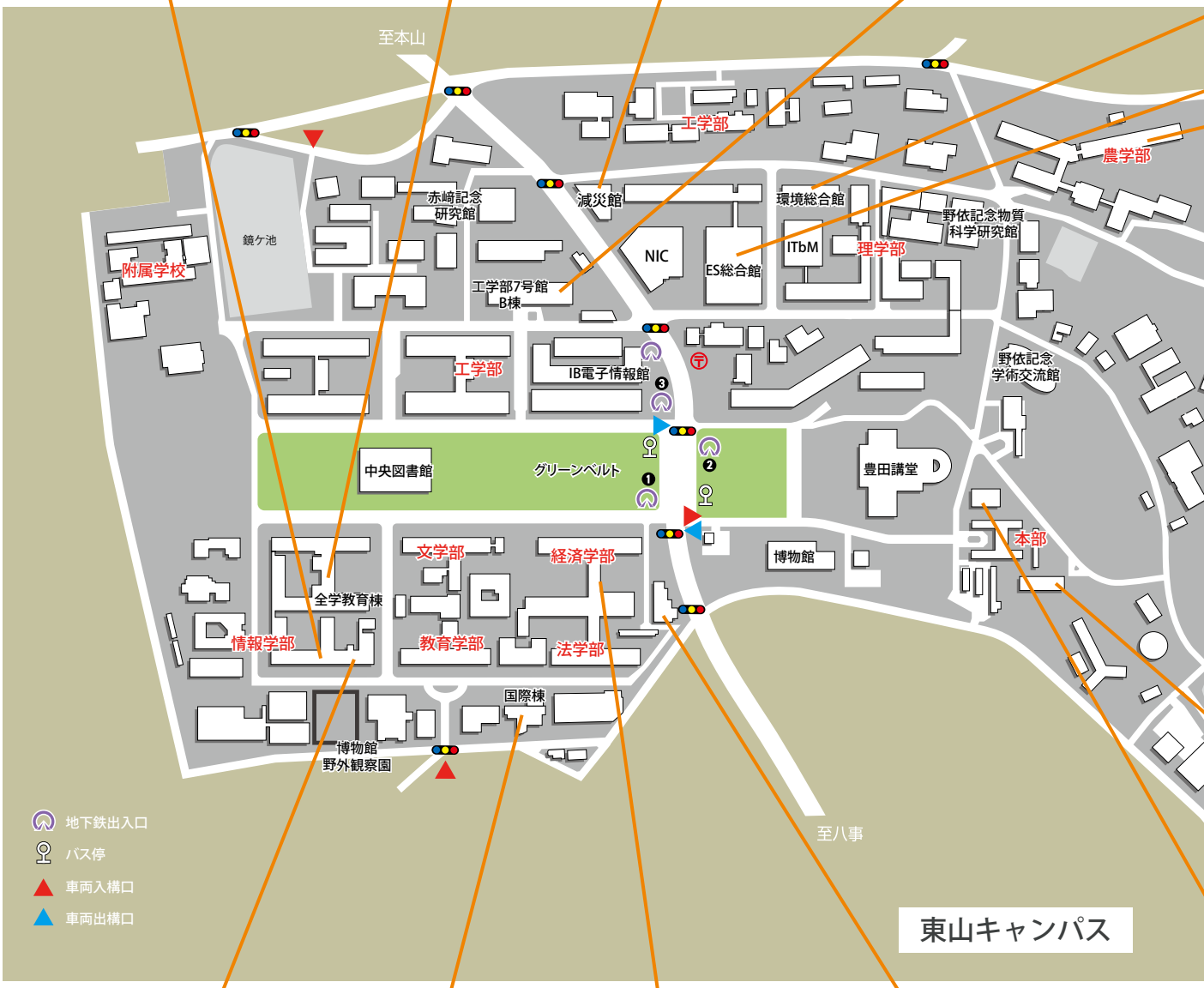
名古屋大学キャンパスマップ（東山・鶴舞・大幸）

生物の進化と生態を
解明します
(P19.20)

基礎セミナー
「都市の川は甦るか？」
(P13.14)

大規模災害時に大学の
安全と機能を守る
(P47)

障害のある学生のキャン
パス・インクルージョンの
実現のために　(P29.30)



廃棄物からワンステップで
水素製造
(P17.18)

国際性と個性を生かして
学び合う環境づくり
(P31.32)

温室効果ガスの排出量
取引　ー環境政策の
経済的手法ー　(P21.22)

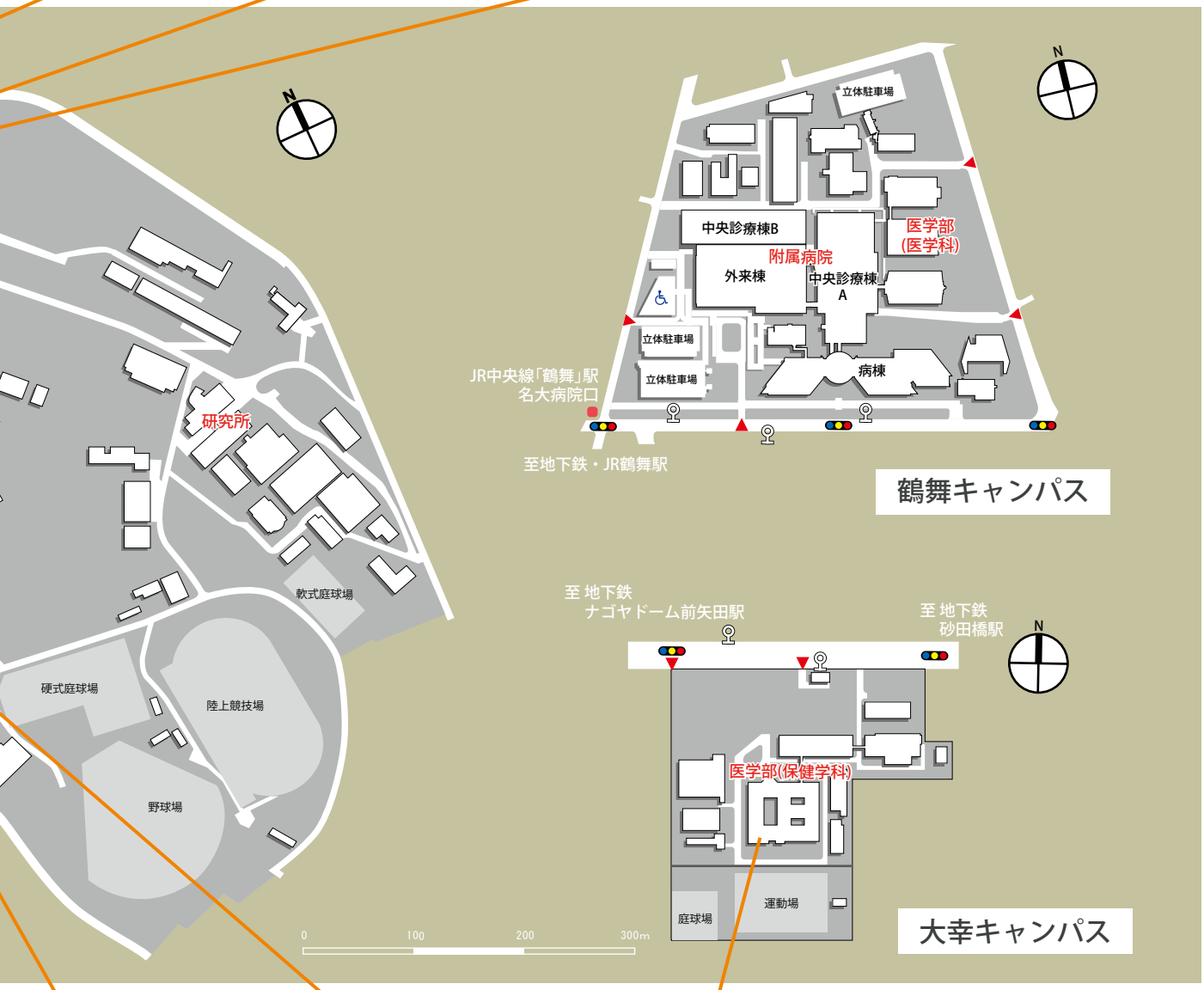
ジェンダー研究の
拠点設立
(P27.28)

「臨床環境学」で持続可能な地域づくりに貢献
(P25.26)

価値あるアイデアを名古屋大学から
(P33)

農学部「海外学生受入研修」「海外実地研修」
(P15.16)

学生たちの環境活動
(P34)



総長メッセージ
(P1)

安全衛生への取組
(P46)

卒業生の活躍
(P35)

他大学との意見交換
(P49.50)